

研究活動 Research Activities

各研究者の研究活動を〔展覧会の企画・構成〕、〔著書〕、〔論文〕、〔翻訳〕、〔エッセイ・作品解説など〕、〔口頭発表・講演など〕、〔その他の活動〕の7項目を中心に報告する(研究者名の五十音順)。項目は各研究者によって多少の異同がある。また、これは研究者の美術館内外での主要な研究活動の報告であり、著作目録のようにあらゆる活動を網羅することを意図してはいない。大項目に絞った報告もある。

河口公夫／Kimio KAWAGUCHI

〔保存修復事業〕

前庭彫刻免震化工事基本設計ならびに彫刻修復処置プロジェクト：ロダン作《考える人》《カレーの市民》の免震化、展示、修復処置(2000年4月－6月末)

貸し出し作品保存処置(温湿度データロガーの設置)

イタリア展作品点検および展示準備

ルノワール作《帽子の女》修復処置

〔論文〕

『酸化プロピレンの材質への影響』、『文化財の虫病害』第40号、2000年12月、pp.22-29(共著：河口公夫・塚田全彦・新井英夫)

〔学会発表〕

“Seismic Isolation and Conservation Work on Rodin’s ‘The Gate of Hell,’” Tradition and Innovation: Advances in Conservation, IIC 18th International Congress, The International Institute for Conservation of Historic & Artistic Works, Melbourne, October 2000(共同発表：Kimio Kawaguchi and Tsukada Masahiko)

〔研究〕

平成12年度文部省科学研究費(基盤研究A-2)「絵画作品展示・輸送用マイクロクライメイトボックスの開発」

〔調査・その他〕

第三展示室開設のための環境調査

企画館展示室可動壁の機能調査と改善

鳥取県立美術館2000年度購入作品保存状態調査

旧松方コレクション、レオナルド・ビストルフィ彫刻群調査

喜多崎 親／Chikashi KITAZAKI

〔論文〕

「バビに顕れるビザンティン ― サン=ヴァンサン=ド=ポール聖堂の様式選択」、『国立西洋美術館研究紀要』No.5、2001年3月、pp.7-34

〔エッセイなど〕

「黒衣の王子と水の処女」、『〈ハムレット〉への旅立ち』、早稲田大学出版部、2001年1月、pp.71-92

「西洋美術館を夢見た男 ― 松方幸次郎」、『なごみ』、2001年2月、pp.68-73

「並列の彼方 夢の引用」、『西美をうたう ― 短歌と美術が出会うとき』展カタログ、国立西洋美術館、2000年7月、pp.9-11

〔その他の活動〕

文部省在外研究(短期)、2000年4月－6月

ナショナル・ギャラリー調査研究ワーキング・グループ委員

「平成12年度美術館等運営研究協議会」(2000年12月11－12日)企画・司会

「フォッグ美術館所蔵ウインスロップ・コレクション(仮題)」展(2002年秋開催予定)の企画・準備

『国立西洋美術館研究紀要』No.5の編集

『国立西洋美術館年報』No.34の編集

早稲田大学第一文学部、第二部学部非常勤講師

幸福 輝／Akira KOFUKU

〔展覧会の企画・構成〕

「レンブラント、フェルメールとその時代」、国立西洋美術館、2000年7月4日－9月24日／愛知県美術館、2000年4月7日－6月18日

〔著書〕

『レンブラント、フェルメールとその時代』展カタログ

〔論文〕

「恋のゆくえ ― フェルメールの《恋文》とパテシバの手紙」、『レンブラント、フェルメールとその時代』展カタログ、pp.55-63(“Love’s Path-Vermeer’s Love Letter and Bathsheba’s Letter,” in Dutch Art in the Age of Rembrand and Vermeer, pp.254-259)

〔エッセイ・作品解説など〕

『レンブラント、フェルメールとその時代』第5章「日々の暮らし ― フェルメールと風俗画」および第6章「神、聖人、英雄 ― もうひとつのオランダ美術」の章解説および作品解説(cat.nos.64-96)

「ヨアヒム・ブーケラール《十字架を運ぶキリスト》(1999年度新収作品報告)」、『国立西洋美術館年報』No.34、pp.9-11

〔口頭発表・講演など〕

「写真と日常の彼方へ ― もうひとつのオランダ美術」、愛知県美術館、2000年4月

「レンブラント、フェルメールとその時代」、朝日カルチャー、2000年7月－8月(全4回)

「みにくい女 ― レンブラントの反古典主義」、国立西洋美術館、2000年7月

「大風景画と小風景画 ― ブリュエールからライスダールへ」、静岡県立美術館、2001年2月

〔その他の活動〕

「レンブラント：聖書、神話、物語」(2003年開催予定)の準備

東京国立近代美術館運営委員

ナショナル・ギャラリー(仮)管理運営委員

明治大学政経学部、第二文学部非常勤講師(2000年4月－2001年3月)

講演会企画運営：ステューヴン・エンゲルス「民営化がもたらしたもの ― ライデン民族学博物館の事例」(美術館博物館運営協議会)、2000年12月

佐藤直樹／Naoki SATO

〔展覧会の企画・構成〕

2000年夏のプログラム「西美をうたう ― 短歌と美術が出会うとき」、国立西洋美術館、共催：現代歌人協会、2000年7月25日－10月29日

[著書]

『西美をうたうー 短歌と美術が会おうとき』展カタログ(編集)、国立西洋美術館、2000年

[論文]

「越境する芸術ー 短歌のエクフラシス」、『西美をうたうー 短歌と美術が会おうとき』展カタログ、国立西洋美術館、2000年、pp.101-112

[翻訳・編集]

『デュッセルドルフ大学版画素描コレクションによる 死の舞踏ー 中世末期から現代まで』展カタログ、国立西洋美術館、pp.252-254、2000年

[口頭発表・講演など]

「西美をうたう」イベント、対談「美術の中の叙情」高階秀爾・俵万智、講演「近代短歌にうたわれた美術作品」篠弘、8名の歌人による自作朗詠、2000年7月28日、すみだリバーサイドホール
上智大学ドイツ思想研究所、講演「皇帝と美術ー カロリング朝からルネサンスまで」、2000年11月21日

[その他の活動]

シンポジウム報告書「皮膚の想像力／The Faces of Skin」(1999年、ドイツ・日本研究所と共催)の編集(2001年8月出版予定)
日本女子大文学部史学科非常勤講師、講座：芸術・思想「版画の歴史」、2000年9月ー2001年3月

高梨光正／Mitsumasa TAKANASHI

[展覧会の企画・構成]

「イタリア・ルネサンス 宮廷と都市の文化」、国立西洋美術館、2001年3月20日ー7月8日

[論文・著作]

『イタリア・ルネサンス 宮廷と都市の文化』展カタログ(日本語版共著、共訳、責任編集)、日本経済新聞社、2001年
「因果な話ー 15世紀物語絵画の構造」、同上カタログ、pp.35-39

[作品解説]

「ベルナルド・カヴァッリーノ《ヘラクレスとオンファレ》(1999年度新収作品報告)」、『国立西洋美術館年報』No.34、pp.12-15

[その他の活動]

「ヴァチカン美術館所蔵古代彫刻展」(仮称、2004年3月開催予定)の調査・準備

高橋明也／Akiya TAKAHASHI

[著書]

『フランス発見の旅』(共著者：菊地丘)2vols.(東編／西編)、東京書籍、2000年

[論文・エッセイなど]

「再発見された田松方コレクションのレオナルド・ビストルフィ彫刻作品群について」(調査報告書)、『国立西洋美術館研究紀要』No.5、2001年、pp.35-41
「シュザンヌ・ヴァラドンと女性芸術家」、『西日本新聞』、2000年11月3日

[口頭発表・講演など]

シンポジウム「死について、交錯する視線」パネリスト：共同パネリスト／樋口陽一(早稲田大学)、加藤周一(評論家)、ミシェル・ヴォヴェル(パリ第一大学)、司会：小林康夫(東京大学)、主催：東京日仏学院／フランス大使館文化部、東京日仏学院、2000年5月9日
「シュザンヌ・ヴァラドンー 美術と女性」、「ユトリロ展ー ユトリロと母ヴァラドン」記念講演会、主催：西日本新聞社、西鉄グランドホテル、2000年10月23日

[その他の活動]

寄贈作品受入調整・調査(東武鉄道寄贈19世紀フランス版画コレクション)
旧松方コレクション レオナルド・ビストルフィ彫刻作品群調査
「古代のヴィジョンー ギリシャ・ローマ美術と近代ヨーロッパの視線ー ルーヴル美術館所蔵品より」(仮題)、国立西洋美術館／兵庫県立近代美術館、2003年(予定)の企画準備
東京芸術大学非常勤講師(2000年4月ー9月)
青山学院女子短期大学非常勤講師(2000年10月ー2001年3月)
文化庁登録美術品に関する調査(現地調査2000年8月3日)
いわさきちひろ絵本美術館運営委員
富山県立近代美術館「これからの近代美術館」検討委員会委員
日仏美術学会例会司会「フランスのロマン主義を巡ってー ジェリコーとドラクロワ」、東京日仏会館、2000年10月27日
日仏美術学会論文査読委員
ジャポニズム学会実行委員
『週刊世界の美術館』(講談社刊)編集協力
「21世紀の美術館は?」、「ラジオ深夜便」(NHK第一放送2001年2月4日放送)

田中正之／Masayuki TANAKA

[展覧会の企画・構成]

「小企画展 東京国立近代美術館所蔵 20世紀前半のヨーロッパ前衛絵画」、国立西洋美術館、2000年1月4日ー2001年9月30日

[小冊子]

『小企画展 東京国立近代美術館所蔵 20世紀前半のヨーロッパ前衛絵画』(編集・執筆)、国立西洋美術館、2000年

[論文]

「アリアドネ・ポーズとウォルプタス」、『西洋美術研究』No.5、2001年3月、pp.103-123

[翻訳]

ロミー・ゴラン「エコール・フランセーズvsエコール・ド・パリ：大戦間期におけるユダヤ人芸術家の地位をめぐる論争」(翻訳および解題)、『西洋美術研究』No.4、2000年10月、pp.84-96

[書評]

L. Nochlin and T. Garb (eds. and introd.), *The Jew in the Text: Modernity and the Construction of Identity*; C. M. Soussloff (ed.), *Jewish Identity in Modern Art History*, 『西洋美術研究』No.4、2000年10月、pp.166-170

[講演]

「近代の子供観とピカソ」、国立西洋美術館、2000年5月27日

〔その他の活動〕

東京学芸大学非常勤講師

「アメリカン・ヒロイズム」展および「肖像が語るアメリカ史」展(2001年8月開催)の調査・準備

田辺幹之助／Mikinosuke TANABE

〔展覧会の企画・構成〕

「死の舞踏 ― 中世末期から現代まで」、国立西洋美術館、2000年10月11日－12月3日／ウルム市ギャラリー、2001年2月4日－4月16日

〔著作〕

『死の舞踏 ― 中世末期から現代まで』展カタログ(共著)、国立西洋美術館、2000年10月

Totentanz – vom Spätmittelalter bis zur Gegenwart, Eva Schuster und Mikinosuke Tanabe(Hrsg.), Stadthaus Ulm 2001

〔論文〕

「死者と虚無。友ハイン ― 中世末期から19世紀に至る死の舞踏の背景」、『死の舞踏 ― 中世末期から現代まで』、pp.29-39

Tote-Nichts-Freund Hain, Der Totentanz vom Spätmittelalter bis zur Moderne, in: Totentanz – vom Spätmittelalter bis zur Gegenwart, S.23 - 33

〔翻訳〕

エヴァ・シュースター「20世紀の死の舞踏」、『死の舞踏 ― 中世末期から現代まで』、pp.40-48、アルフォンス・ラーピッシュ「西洋近代文明の中の健康、病、死」、同pp.49-56、エヴァ・シュースター「死と戦争」、同pp.63-69ほか

〔その他の活動〕

「ブラド美術館展」(2002年3月開催予定)の準備・調査
東京芸術大学非常勤講師、2000年9月－2001年3月

塚田全彦／Masahiko TSUKADA

〔保存修復事業〕

前庭彫刻免震化工事基本設計ならびに彫刻修復処置プロジェクト：ロダン作《考える人》《カレーの市民》の免震化、展示、修復処置(2000年4月－6月末)

貸し出し作品保存処置(温湿度データロガーの設置)

イタリア展作品点検および展示準備

修復処置に伴う作品に用いられた材料の化学分析

〔論文〕

「酸化プロピレンの材質への影響」、『文化財の虫菌害』第40号、2000年12月、pp.22-29(共著：河口公夫／塚田全彦／新井英夫)

〔学会発表〕

“Seismic Isolation and Conservation Work on Rodin’s ‘The Gates of Hell,’” Tradition and Innovation: Advances in Conservation, IIC 18th International Congress, The International Institute for Conservation of Historic & Artistic Works, Melbourne, October 2000(共同発表：Kimio Kawaguchi and Masahiko Tsukada)

〔研究〕

平成12年度文部省科学研究費(基盤研究A-2)「絵画作品展示・輸送用マイクロクライメイトボックスの開発」

〔調査・その他〕

第三展示室開設のための環境調査

企画館展示室可動壁の機能調査と改善

旧松方コレクション、レオナルド・ピストルフィ彫刻群調査

寺島洋子／Yoko TERASHIMA

〔教育普及活動〕

Teacher Institute Summer 2000「The Beat Generation and Beyond: American Art of the 1950s and 1960s」補助、ワシントン・ナショナル・ギャラリー、2000年7月10日－15日、7月24日－29日、8月7日－12日

〔翻訳〕

ジョン・H.フォーク「個人学習のための施設としての博物館」、『国立西洋美術館研究紀要』No.5、2001年3月、pp.43-55

〔その他の活動〕

文部省在外研究(1999年9月1日－2000年9月27日)

Smithsonian Summer Seminars for Teachers参加

「Smithsonian Connections IV: An In-Depth Experience」7月17日－21日

「Smithsonian Connections III: Literacy Activities in Museums」8月1日－4日

子どもから楽しめる美術展「水の誘い」調査・準備

波多野宏之／Hiroyuki HATANO

〔論文〕

「博物館と映像データベース」、『進化する映像 影絵からマルチメディアへの民族学』展カタログ、財団法人千里文化財団、2000年7月、pp.48-49

「ヨーロッパにおける映像情報資源 ― ネットワークと映像分析の研究」、『文化変容にかかわる民族誌映像資料の再検証』(平成10年度～平成12年度科学研究費補助金[基盤研究(A-2)]研究成果報告書、研究代表者大森康宏)、2001年3月、pp.1-16

「国立西洋美術館における作品画像のデジタル化と今後の課題 ― デジタルギャラリーを中心に ―」、『デジタルアーカイブ白書2001』、デジタルアーカイブ推進協議会、2001年3月、pp.152-153

「超高精細モニタによる作品画像の最適視認距離についての研究」、『国立西洋美術館研究紀要』No.5、2001年3月、pp.57-70(共著)

〔口頭発表・講演など〕

「超高精細画像による展示 ― デジタルギャラリーと日加仮想展覧会の試み ―」、文部省国際シンポジウム「博物館における最先端の映像の可能性 ― 社会、人間、映像 ―」、国立民族学博物館、2000年11月10日－14日

〔その他の活動〕

「美術館における超高精細画像の応用に関する調査研究」(客員研究員との共同研究、2000年4月－2001年3月)

「文化変容にかかわる民族誌映像資料の再検証」(科学研究費補助金[国際学術研究、研究代表：国立民族学博物館大森康宏]研究分担者、2000年4月－2001年3月)

資料コーナーの公開運用

図書資料(逐次刊行物)データ遡及入力

デジタルギャラリー：超高精細画像検索表示システムの公開運用およびデータ追加

国立西洋美術館情報資料懇談会の継続開催

駿河台大学大学院文化情報学研究科非常勤講師(2000年4月－7月)

慶應義塾大学文学部非常勤講師(2000年9月－2001年3月)

渡邊晋輔／Shinsuke WATANABE

[翻訳]

ジョヴァンナ・ラッツィ「15世紀イタリアの彩色写本画について」、『イタリア・ルネサンス ― 宮廷と都市の文化展』カタログ、pp. 23-25

[エッセイ・作品解説など]

「バルトロメオ・モンターニャ(に帰属)《城の見える風景》」、『国立西洋美術館ニュース ゼフェロス』第9号、2001年3月

「フランス素描名作展」小冊子編集

[口頭発表]

「アレーナ礼拝堂壁画に描かれた大理石表現について」、美術史学会東支部例会、2000年7月22日、東京大学